

G-1 : 国際

開催日時 9月19日（水曜日）10:30-12:00 401(4階)

クロスカルチャー奮闘記 ー簡単じゃない外国人研究者支援ー

いま、グローバル社会での生き残りをかけ、多くの大学で、英語公用語化、秋入学、国際共同研究の推進などに取り組んでいます。ところが、多くの大学から、外国人研究員の受け入れ態勢が万全ではないという声が聞こえてきます。

外国からの研究者と家族を受け入れ、充実した生活を送り、研究に集中して成果を出してもらうために、URA(そして大学として)どんな支援ができるのか？RA協議会では、ダイバーシティ、国際共同研究の促進、海外URA組織との連携について様々な議論がなされてきました。本セッションでは、少し違った視点で、今までに議論されなかった、「外国人研究者の受け入れ環境整備」に焦点を当てます。研究環境と生活環境を整えることで、さらに優れた研究者を惹きつけ、結果としてボーダーレスな共同研究を推進し、グローバルな研究チームを構築、という正の循環が生まれます。

第1部では、OISTにおける外国人研究者支援の全体像、短期滞在(外国人特別研究員や客員研究員)と長期滞在(数年間雇用されるポスドクやPI等)のそれぞれについて、例えば、赴任支援、外国人雇用・テニュアトラックの運用、生活支援、研究費応募支援などについて紹介します。

第2部では、ディスカッションを通じて、国際化の良い面だけでなく、必ず起こりうる悪い面、つまり、文化の違いから生じる対立をどのように乗り越えて協力していけばよいのか考えます。国際的な環境の中で働くためには避けて通れない異文化理解力を深めるために、スピーカーの実例を交えたケーススタディも含めながら議論を行います。

「ドキュメントの英語化とバイリンガル対応」と言えば簡単そうに聞こえますが、体制整備後のオペレーションやソフト面こそが大事だと考えます。外国人受け入れ支援、研究費応募支援、事務方との調整、外国人支援の仕組みの構築などを担当されている方々のご参加をお待ちしています。

オーガナイザー



藤松 佳晃: 沖縄科学技術大学院大学
外部研究資金セクション アシスタントマネジャー・URA

岡山大学経済学部卒業。米系IT企業の営業本部でビジネスアナリストとして7年間勤務。2010年に東京から沖縄に移住し、OIST財務部へ、2013年から現職、外部研究資金のプレアワードとポストアワードに従事し、多国籍な研究者を支援している。

G-1 : 国際

オーガナイザー



伊藤 徹 : 沖縄科学技術大学院大学
教員学監担当オフィス アシスタントマネジャー

外資系銀行・証券にて約10年従事した後に、2009年よりOISTにて勤務を開始。人事・採用業務から赴任サポート担当などを経て、2014年より現職、教員・研究ユニット人事担当として国内外からのテニュア・テニュアトラック教員および研究員の採用・雇用契約を主に担当。



上杉 敬太 : 沖縄科学技術大学院大学
リソースセンター ディレクター

米国の大学を卒業後、外資系IT企業やカナダの翻訳会社で勤務したのち、2015年よりOISTにて勤務を開始。ITサポートセクションでの業務を経て、現在はリソースセンターのディレクターとしてメンバーと共に研究員、職員、学生に対して生活面でのサポートを提供している。



マン 愛 : 沖縄科学技術大学院大学
人事採用サポートセクション 赴任サポートスタッフ

英国の日系企業で多国籍な環境の中、5年間、採用事務・営業等を経験し、帰国。2010年3月よりOISTで勤務。人事セクションで採用活動・赴任者支援等を2年担当したのち、施設管理セクションで1年間、学内の住宅管理・運営等を担当した。2014年から現職の赴任支援に従事しており、主に外国人研究者の就労Visa等の手配や生活基盤の構築等に携わっている。